

「コミュニティバスに乗ってみませんか！」

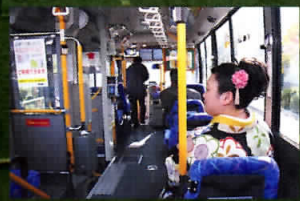
見沼田んぼへ『いざ、出陣！』



女流講師 神田 山吹の

コミュニティバス体験記

さいたま市のコミュニティバスは、駅や病院、公共施設などの生活に便利なルートを巡り、環境にやさしい天然ガスを燃料とするなど、人にもまちにもやさしい乗り物です。この「コミュニティバス」にもさいたま市という女流講師の神田山吹さんに乗っていただき、「コミュニティバス」の魅力やエコロジーなライフスタイルのヒントを聞いてみました。



コンパクトでかわいい！
細い道もスイスイ走る

「コミュニティバスは初体験か。」

神田 まことにお恥ずかしい話ですが、実は「コミュニティバスに乗ったのは今回が初めてなんです。私が住んでいる西区にも走っている存在は知っていました。でも、なかなか乗る機会がなくて(笑)。」

「コミュニティバスの特長はご存知ですか。」

神田 実は今回のために少し勉強したんです(笑)。路線バスのルートを補うような形で、市内6区で走っているそうですね。ひとわり小さい車体で、細い道もスイスイ行けるので、生活により密着しているバスなんです。あとは、ガソリンとかじゃなくて、天然ガスで走っている。CO2の排出が少ない、環境にやさしいバスだから。最近よく耳にする「低炭素社会」ですか、その実現に役買っているのかな。

「実際に乗った感想はいかがですか。」

神田 いいですねえ。音も静かです。



古い歴史に育まれた広大な田園に稲穂が実る。都市と自然とが共存する、後世に残したい風景 (さいたま新都心を望む見沼田んぼ)

江戸庶民は「エコライフ」 リサイクルで財をなした瑞賢

「環境にやさしいコミュニティバス」というお話が先ほどもありましたが、講談の中にもそのようなお話がありましたらご披露ください。

神田 講談は江戸時代のお話が多いんですが、当時の庶民は日の出とともに起きて、日入りとともに寝るような生活をしていました。まさに省エネですね。江戸時代に戻るとまではいいませんが、そのころの生活を見習えば、環境のためにするべきことが見えてくるのではないかと思います。たとえば、江戸時代に作られた稲は、実よりも藁がたくさん採れる品種だったそ

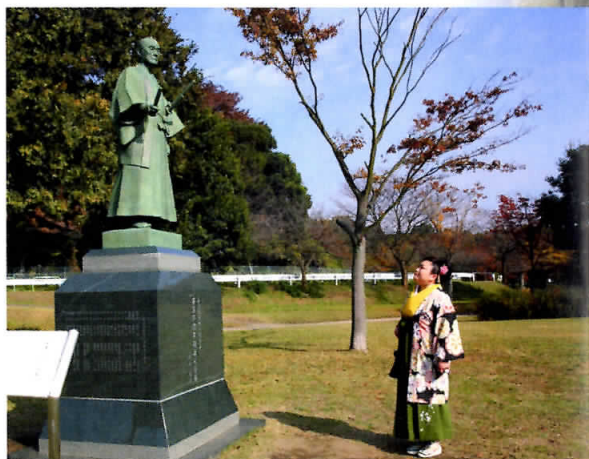


この日見学に来られた方々とのふれあい (旧坂東家見沼くらしっく館)

うで、その藁で草鞋や縄、蓑などを作ったり、燃料や屋根ふきなどの材料に使ったという事です。捨てる場所がほとんどない。江戸庶民のライフスタイルは現代でも見習うべきことが多々あるのではないのでしょうか。

「まさに温故知新ですね。」

神田 そうですね。これは講談のお話ですが、その昔、河村瑞賢という大阪生まれの人がいまして、江戸の町民がお盆の飾り、たとえば、ナスとかキウリ、カボチャなどの野菜やござをお盆が終わると川に流していた。それを見た瑞賢は、「もったいない、もったいない」といながら、大八車を引いてもらって歩いた。そして、野菜は漬物に、ござは月見の夜や、隅田川の花火の時に売って財をなして、ついには徳川家御抱えの豪商にまでなりました。今でいうリサイクルで大成功をしたといえますね。



見沼代用水開削の立役者、井沢弥惣兵衛さんとご対面(見沼自然公園)

暴れん坊將軍の贈り物 未来に伝えたい見沼田んぼ

「さすが大阪商人。目のつけどころが違う。」と、今回「コミュニティバス」に乗って行った見沼田んぼは、神田さんの十八番「暴れん坊將軍」の徳川吉宗にゆかりがあるそうですね。

神田 そうなんです。当時の江戸幕府は大変な財政難に苦しんでいて、そんな時に紀州の吉宗公が將軍職に就いた。吉宗公は大変な倅約家で、贅沢三昧をすべて禁止する倅約令を出すとともに、家臣の井沢弥惣兵衛に見沼田んぼの新田開発を命じたといえます。井沢は55歳の高齢、隠居の身分だったにも関わらず、見沼代用水、見沼通船堀など、すばらしいものを私たちに残してくれた。特に見沼通船堀は、かのパナマ運河のさきがけになるよう

快適でした。今回は、見沼区役所からさき山記念公園までの区間でしたが、乗ってみると、こまめに停留所があることに気がきました。病院とか公共施設とか、ちよつとした見どころとか。便利なお話に、いただいた見沼田んぼの風景が、まさに私たちが市民の身近な足という感じですね。

「デザインについてはいかがですか。」

神田 青くて「コンパクトでかわいいですね。乗っていてなんだから楽しくてウキウキしちゃいました。これを機会に、他区のバスにも乗ってみたいと思いました。もっとたくさんの方にもぜひ乗ってもらいたいですね。」



かつての農家の姿を再現した旧坂東家住宅でホッとひと息 (旧坂東家見沼くらしっく館)